

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
現代の国語	農業食品科 グリーン 環境科 社会福祉科・ 2年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 高等学校 新編 現代の国語（第一学習社） <input type="checkbox"/> 副教材 五訂版 漢字検定対応 常用漢字オールクリア（尚文出版） <input type="checkbox"/> 副教材 常用漢字オールクリア 別冊徹底トレーニングノート（尚文出版）
------	--

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能をICTや辞書、補助教材を用いて身に付けるようする。	協働的かつ対話的な活動をとおして論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようとする。	各種検定試験の受検や作文コンクールへの主体的な参加を促しながら言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>B 評価の規準</b>  <b>[表現力を支える知識を身に付けることができた]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し言葉と書き言葉の特徴を理解している。</li> <li>・常用漢字を文や文章の中で活用している。</li> <li>・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。</li> <li>・文章の効果的な組み立て方や接続のしかたを理解している。</li> <li>・敬語表現を理解し、相手や場に応じた表現が選択できる。</li> </ul>	<p><b>B 評価の規準</b>  <b>[自ら考えたり想像したりしたことを表現し、伝えることができた]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する方法を身に付けている。</li> <li>・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、話（文章）の構成や展開を工夫している。</li> </ul>	<p><b>B 評価の規準</b>  <b>[主体的・意欲的に学習に取り組むことができた]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート等へ自分の考えを記入し、発表する。</li> <li>・友達の意見を聴き取り、ワークシート等に記入している。</li> <li>・ワークシート等を期限までに不備のない状態で提出する。</li> </ul>
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考查で主に判断します。</p>		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	新しい出会い「ナマケモノになる」 (辻信一)	4	・筆者がナマケモノから学んだことを理解し、「ナマケモノになる」ことの意味について考えを深める。
5	書いて伝える「書き方の基礎レッスン」	6	・表記・表現の基本ルールを理解する。 ・接続表現の種類や用法を理解する。 ・比喩などの表現技法を理解する。
6	書いて伝える「身近な製品の取扱説明書を作成する」	2	・情報を的確に説明する方法を理解する。 ・情報を相手にわかりやすく説明する方法を理解する。 ・わかりやすい説明を実践できるようになる。
	言葉が開く世界「言語としてのピクトグラム」(本田弘之)	4	・ピクトグラムが持つ「言語」としての機能を理解し、言語表現の多様性について考えを深める。
7	話して伝える「話し方の工夫」	5	・話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 ・相手・目的・場面に応じた言葉遣いを理解する。 ・相手により伝わりやすい表現方法を理解する。
8			
9	人間の風景「臆病な詩人、街へ出る」(文月悠光)	8	・他者との関わりを通して自身の人生や生き方を省みる筆者の姿に触れ、自分自身を見つめ直す契機とする。
10	話して伝える「待遇表現」	4	・敬語表現を意識した言葉遣いを理解する。 ・敬語表現が選択される視点を理解する。 ・相手や場に応じた表現が選択できるようになる。
	話して伝える「論理的な表現」	4	・論理的に表現するための、主張と理由の関係性や妥当性について理解する。 ・説得力を意識した表現のしかたについて理解する。
11	社会と人間『弱いロボット』の誕生」(岡田美智男)	4	・「弱いロボット」の開発意図を理解し、人との間に生まれた関係性について考えを深める。

12	生活の中の表現「法律の改正に関する文章を読み比べる」	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>改正前後の法律文を読み比べて必要な情報を取り、複数の文章を関連づけながら理解したことをまとめる。</li> </ul>
1	現代と社会「イースター島になぜ森がないのか」(鷺谷いづみ)	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>イースター島の歴史について理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する。</li> </ul>
2	話して伝える「スピーチで自分を伝える」	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。</li> <li>他の人のスピーチを聞き取り、評価する方法を学ぶ。</li> </ul>
3	書いて伝える「社会に対する意見文を書く」	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見文とはどういうものかを理解する。</li> <li>自分の経験の中から意見を導き出せるようになる。</li> <li>意見文の書き方を理解し、実践し、評価する。</li> </ul>

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
地理総合	農業食品科2年 グリーン環境科2年 社会福祉科2年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 地理総合（東京書籍） <input type="checkbox"/> 地図帳 基本地図帳（二宮書店） <input type="checkbox"/> ノート 地理総合ワークノート（東京書籍）
------	--

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを系統的に理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用い、ICTも活用しながら調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、協働的な学習をとおして地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事情について、地域に関する学びや体験等を踏まえてよりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>[知識]</b></p> <p><b>B 地理的事象に関する用語を知っている。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要語句や重要事項を答えたり、その内容を説明したりすることができる。</li> </ul> <p><b>A 地理的事象を概念として理解することができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習ったことを一般化できる形に抽象化して整理したり説明することができる。</li> </ul> <hr/> <p><b>[技能]</b></p> <p><b>B 提示された資料から必要な情報を読み取ることができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された地図やその他の図表、グラフなどの資料から、必要な情報を読み取ることができる。</li> </ul> <p><b>A 適切な資料選び、必要な情報を読み取ることができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図やその他の図表、グラフなどから、適切な資料を選び、必要な情報を読み取ることができる。</li> </ul>	<p><b>[思考]</b></p> <p><b>B 習った地理的事象を他の事柄にあてはめることができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象化した既習事項と別の地理的事象との構造的な共通点を見出すことができる。</li> </ul> <p><b>A もとの事柄とあてはめた事柄とを比べることができます。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の事柄を、共通する構造で捉えて、さらなる共通点を推測したり自然や気候を含む様々な条件に起因する相違点などを挙げたりして整理することができる。</li> </ul> <hr/> <p><b>[判断]</b></p> <p><b>B 地理的事象に関する判断基準を把握できている。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その事柄に関する課題は何か、その課題に対して誰がどのような考え方を持っているかについて整理することができる。</li> </ul> <p><b>A 地理的事象について価値判断を行うことができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その事柄は、誰にとってどのような意味があるのか、それぞれの立場から説明できる。</li> </ul> <hr/> <p><b>[表現]</b></p> <p><b>B 地理的事象について自分の考えを述べることができます。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習った内容を比較したり価値判断を行ったりしたことでもとに自分の考えを述べることができる。</li> </ul> <p><b>A 地理的事象についての自分の考えを、適切な方法で表すことができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章や地図、グラフ、その他の図表などを用いて、他者に効果的に伝えることができる。</li> </ul>	<p><b>[自己調整学習・粘り強い取り組み（学習方法）]</b></p> <p><b>B 学習の振り返りを行うことができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの学び方を振り返り、改善しようとすることができる。</li> </ul> <p><b>A 振り返りをもとに、学び方を継続的に改善することができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの学び方を振り返り継続的に改善することができ、その成果が、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点の成績にも表れている。</li> </ul> <hr/> <p><b>[自己調整学習・粘り強い取り組み（学習の深まり）]</b></p> <p><b>B 自分で問い合わせ立てることができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問に感じた点やさらに深めたい部分などを自分で見つけ、問い合わせ立てることができる。</li> </ul> <p><b>A 自分とのつながりや地球的・地理的諸問題を意識した問い合わせ立てることができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的事象と自分や地球的・地理的諸問題とのつながりに興味を向けることができ、それらを深めるための問い合わせ立てることができる。</li> </ul>

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	球面上の世界	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・位置の基準～地球上の緯度と経度</li> <li>・時間の基準～時差と標準時</li> </ul>
	日本の位置と領域	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視点を変えてみた日本の位置</li> <li>・国家とその領域</li> <li>・海に広がる日本の領域</li> <li>・日本の領域に関する問題</li> </ul>
	国家や国家間の結びつき	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家間の結びつき</li> <li>・交通・通信による結びつき</li> <li>・交易・物流による結びつき</li> <li>・観光による結びつき</li> </ul>
5	暮らしのなかの地図と GIS	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの地図を集めること</li> <li>・主題図・グラフの見方</li> <li>・地理院地図の活用</li> <li>・GIS の仕組みと役割</li> </ul>
	地形と生活文化	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変動帯とプレート</li> <li>・河川がつくる地形と生活</li> <li>・海岸の地形と生活</li> </ul>
6	気候と生活文化	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気の循環</li> <li>・気候の地域性</li> <li>・ケッペンの気候区分</li> <li>・熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の自然環境と生活</li> </ul>
	産業と生活文化	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業・工業・サービスの発展と生活文化</li> </ul>
	宗教・言語と生活文化	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宗教と言語の分布と生活文化</li> <li>・移民と難民</li> <li>・生活文化の多様性</li> </ul>
7	経済発展と生活文化の変化 ～東アジア	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済発展を支える自然・農業と生活文化</li> <li>・市場経済化と生活文化の変化～中国</li> <li>・輸出による発展と生活文化の変化～韓国</li> <li>・経済発展による変化と課題</li> </ul>
	日本の位置と領域	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視点を変えてみた日本の位置</li> <li>・国家とその領域</li> <li>・海に広がる日本の領域</li> <li>・日本の領域に関する問題</li> </ul>
8	水の恵みと生活文化 ～南アジア	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川による恵みと生活文化</li> <li>・水の恵みによる発展と課題</li> </ul>

9	イスラーム社会の多様性と生活文化 ～イスラーム圏	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥地域とイスラームの社会</li> <li>・経済発展とイスラーム社会の変化</li> <li>・イスラーム圏の現状と課題</li> </ul>
	多様な気候と生活文化 ～アフリカ	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な自然環境と生活文化</li> <li>・経済成長と自然環境の変化による課題</li> </ul>
10	経済統合による生活文化の変化 ～EUと周辺諸国	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済発展の礎となった自然環境と農業</li> <li>・産業・交通の発達による一体化</li> <li>・統合を進める背景と言語・宗教の多様性</li> <li>・経済統合と政治統合の進展と課題</li> </ul>
	寒冷な気候と生活文化 ～ロシア	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒冷な気候と生活・産業</li> <li>・寒冷地域の開発による成長と課題</li> </ul>
11	グローバル化による生活文化の変化 ～アメリカ・カナダ	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済発展の基盤となった社会の多様性</li> <li>・大規模な農業とグローバルな食文化</li> <li>・グローバル化による変化と課題</li> </ul>
	土地の開発による生活文化の形成 ～ラテンアメリカ	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発による農牧業の発展と生活文化</li> <li>・開発による発展と社会にみられる課題</li> </ul>
12	植民と移民による生活文化 ～オセアニア	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植民による開発と生活文化</li> <li>・移民と多文化社会にみられる課題</li> </ul>
	各地域の生活文化を比較してみよう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の生活文化を比較してみよう</li> </ul>
	地球環境問題	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題と持続可能な社会</li> <li>・国境を超える汚染</li> <li>・森林減少・砂漠化とその対策</li> <li>・気候変動とその対策</li> </ul>
1	資源・エネルギー問題	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉱物資源・エネルギー資源とその課題</li> <li>・資源のリサイクル・再生可能エネルギー</li> </ul>
	人口・食糧問題	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口と人口問題</li> <li>・世界各地の人口問題</li> <li>・二つの食糧問題</li> <li>・食糧問題の背景と解決策～サブサハラ</li> </ul>
	「誰も置き去りにしない世界」を考える	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰も置き去りにしない世界」を考える</li> </ul>
2	日本の自然災害と防災	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界地図でとらえる自然災害のリスク</li> <li>・世界からみた日本の地形の特色、世界からみた日本の気候の特色</li> <li>・風水害と防災</li> <li>・火山の噴火と防災</li> <li>・地震・津波と防災</li> <li>・都市型災害と防災</li> <li>・防災への心構え～自助・共助・公助～</li> </ul>
3	地図を防災・避難行動に役立てよう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図を防災・避難行動に役立てよう</li> </ul>

	生活圏の諸課題と地域調査	2	<ul style="list-style-type: none"><li>・地理の力で地域の課題を解決しよう</li><li>・主題図からみた日本の特徴と課題</li><li>・地域調査① 事例地域の選定～事前調査</li><li>・地域調査② 現地調査～調査地図の作成</li><li>・地域調査③ 他地域との比較～まとめ</li></ul>
	・地域調査の結果を発表しよう	1	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域調査の結果を発表しよう</li></ul>

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
数学A	農業食品科 2年 グリーン環境科 2年 社会福祉科 2年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 新高校の数学A（数研出版） <input type="checkbox"/> 問題集 ポイントノート数学A（数研出版）
------	---

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
集合と命題について理解し、 基本的な知識を身に付けてい る。  和の法則、積の法則、そして 順列・組合せの考えを理解し て、場合の数を求め、それから 確率を求めるための知識を身 に付けている。具体的な事象の 起こりうる場合の数を順列や 組合せの考えを用いて表現し、 確率の基本性質を活用して、そ の確率を求めることができる。  図形の性質を系統的に理解 し、基礎的な知識を身に付けて いる。図形の性質が論理的に正 しいことを的確に表現するこ	集合の関係を図を用いて考 察することができる。  順列・組合せなどの場合の数 の求め方を身に付け、具体的な 事象の確率を考察する能够 である。  図形の見方を豊かにすると ともに、図形の性質を見出し、 論理的に考察することができる。  人間の活動について、整数の 性質で学んできたことをもとに 考察しようとする。	集合に関心を持つとともに、 その有用性を認識し、それらを 問題の解決に活用しようす る。  不確定な事象を数学的に捉 えることの有用性を認識し、具 体的な事象の考察に活用しよ うとする。  三角形や円など図形の性質 に関心を持つとともに、それら の有用性を認識し、問題の解決 に活用しようとする。  人間の活動を理解するために、 数学を活用しようとする。

とができる。 整数に関する概念などと人間の活動の関わりについて、数学的な見方で理解することができる。		
---	--	--

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B評価の規準 【わかった・できた】 <ul style="list-style-type: none"><li>・学習内容を暗記するのではなく、図形や文字などから概念として理解できる。</li><li>・練習問題などの演習に自ら取り組み、立式から計算まで完結して解答できる。</li></ul>	B評価の規準 【よく考え、意見を持ち、説明できた】 <ul style="list-style-type: none"><li>・発展的な問題にも学習した知識を組み合わせて、論理的に考察して解法を表現できる。</li></ul>	B評価の規準 【粘り強さ】 <ul style="list-style-type: none"><li>・課題に計画的に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、短期・中期の課題を解決していくことができる。</li></ul>
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	場合の数と確率	3	・集合の要素の個数　・場合の数
5	場合の数と確率	5	・順列　・組合せ
6	場合の数と確率	7	・いろいろな順列　・事象と確率
7	場合の数と確率	8	・確率の基本性質　・独立な試行
8	場合の数と確率	2	・反復試行
9	場合の数と確率	5	・条件付き確率　・期待値
10	図形の性質	5	・直線と角

11	図形の性質	7	・三角形の重心・外心・内心・垂心 ・チェバの定理とメネラウスの定理
12	図形の性質	7	・円周角　・円と直線 ・2つの円の位置関係
1	図形の性質	5	・平面と直線　・多面体
2	数学と人間の活動	6	・ユークリッドの互除法
3	数学と人間の活動	5	・倍数の判定　・位取り記数法とn進法

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
体育	2年 AGW 科	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
------	--

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な課題解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>B 評価の規準</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して技術の名称や実践、ルールやマナーを理解しようとしている。</li> <li>・課題解決法、練習法、試合法を理解しようとしている。</li> </ul>	<p><b>B 評価の規準</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時の振り返りシートに反省を記入し、自己評価をしようとしている。</li> <li>・互いに助け合い、教えあい、高め合おうとしようとしている。</li> <li>・役割を積極的に引き受け事故の責任を果たそうとしようとしている。</li> </ul>	<p><b>B 評価の規準</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備運動の声出し、活動時の周囲への声掛け、準備・片付けを積極的に行おうとしている。</li> <li>・活動の目的を理解し、実践しようとしている。</li> <li>・他者と協力して周囲に配慮をしようとしている。</li> <li>・健康・安全を確保しようとしている。</li> <li>・授業に積極的に参加しようとしている。</li> </ul>
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、スキルテスト、体育理論で主に判断します。</p>		

特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。

## 学習計画

月	単元	時数	学習項目
4	ダンス 体つくり運動	6 3	現代的なリズムのダンス 体ほぐし運動 体の動きを高める運動 実生活に生かす運動の計画
5	球技 (選択①)	8	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
6	球技 (選択①)	6	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
7	球技 (選択②) 体育理論	6 2	スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程と練習 効果的な動きのメカニズム 体力トレーニング 運動やスポーツでの安全の確保
8	球技 (選択②)	2	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
9	球技 (選択②) 球技 (選択③) 体育理論	4 4 2	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール

			<p>スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程と練習 効果的な動きのメカニズム 体力トレーニング 運動やスポーツでの安全の確保</p>
10	球技（選択③） 体育理論	8 2	<p>○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール</p> <p>スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程と練習 効果的な動きのメカニズム 体力トレーニング 運動やスポーツでの安全の確保</p>
11	陸上競技（長距離走）	6	20分間走・4キロ走
12	陸上競技（長距離走）	7	20分間走・4キロ走
1	ダンス 体つくり運動	6 2	現代的なリズムのダンス 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画
2	ダンス 体つくり運動	6 2	現代的なリズムのダンス 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画
3	ダンス	4	現代的なリズムのダンス

## 令和6年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
保健	2年 AGW 科	1	

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
------	--

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 ・単元テストの内容を理解しようとしている。	B 評価の規準 ・単元の内容を理解し、文章表現しようとしている。 ・グループワークでの話し合いにより、単元の学びを深めようとしている。 ・発表の内容を分かりやすく説明したりスライドにまとめたりしようとしている。	B 評価の規準 ・互いに協力して教え合おうとしている。 ・役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たそうとしている。 ・授業に積極的に参加しようとしている。
※単元テスト、グループ発表の内容、スライドの作成		

特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ライフステージと健康	1	講義、単元テスト
5	思春期と健康	1	講義、単元テスト
6	性意識と性行動の選択	1	講義、単元テスト
7	妊娠・出産と健康	1	講義、単元テスト
	避妊法と人工妊娠中絶	1	講義、単元テスト
	結婚生活と健康	3	調べ学習（グループワーク）
	中高年期と健康	1	クラス別発表（グループ）
8	働くことと健康	1	講義、単元テスト
9	労働災害と健康	1	講義、単元テスト
10	健康的な職業生活	1	講義、単元テスト
11	大気汚染と健康		調べ学習（グループワーク）
12	水質汚濁、土壤汚染と健康 環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備	2	

		1	クラス別発表（グループ）
1	さまざまな保健活動や社会的対策	1	講義、単元テスト
2	健康に関する環境づくりと社会参加	1	講義、単元テスト
3	食品の安全性 食品衛生にかかわる活動	2	講義、単元テスト
	保健サービスとその活用 医療サービスとその活用 医薬品の制度とその活用	3	調べ学習（グループワーク）
		1	クラス別発表・学年発表（グループ）

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
英語コミュニケーションⅡ	農業食品科 グリーン環境科 社会福祉科 2年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> VISTA English Communication II (三省堂)
------	---

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの Lessonにおいて、新しく学習する文法事項や、これまで学習した文法事項の表現に注意しながら、内容を理解する技能を身に付けている。</li> <li>文章の趣旨を考えながら、その内容について詳しく話して伝える技能を身に付けている。</li> <li>文章の内容について基本的な語句や文を用いて、詳しく書いて伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章についての概要や要点、必要な情報を、聞き取って捉えている。</li> <li>文章の趣旨を考えながら、その内容について詳しく話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。</li> <li>文章の内容について基本的な語句や文を用いて、詳しく書いて伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章についての概要や要点、必要な情報を、主体的に聞き取って捉えようとしている。</li> <li>理解を深めるために、文章の趣旨を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。</li> <li>文章の趣旨を考えながら、その内容について主体的に詳しく話して伝えようとしている。</li> <li>文章の内容について基本的な語句や文を用いて、主体的に詳しく書いて伝えようとしている。</li> </ul>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>B 評価の規準</b>  <b>[文法理解]</b>            • 文法について理解しており、プリントやノート等に適切にまとめている。  <b>[話すこと、書くこと]</b>            • 本文の内容について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり、書いたりして伝える技能を身につけている。</p>	<p><b>B 評価の規準</b>  <b>[話すこと]</b>            • 本文の内容について、情報や考え、気持ち等を論理的に伝えたり、話したりしている。  <b>[書くこと]</b>            • 本文の内容について、情報や考え、気持ち等を論理的に書いて伝えている。</p>	<p><b>B 評価の規準</b>  <b>[書くこと]</b>            • 本文の内容について、話し手に配慮しながら、主体的に話を聞き、聞いた内容をプリントやノート等に適切にまとめている。  <b>[読むこと、話すこと]</b>            • 本文の内容について、聞き手に配慮しながら、主体的に書かれていることについて読んだり、話したりしている（発音練習、発表などが含まれます）。</p>
<p>※「知識・技能」は、定期考査や単元テストで主に判断します。</p> <p>※「思考・判断・表現」は、定期考査やスピーキングテスト等で主に判断します。</p>		
成果や内容が特に顕著な場合は A評価 とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4 ・ 5	<p><b>授業オリエンテーション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● A L Tとのチームティーチングを実施（月に2～3時間程度）</li> <li>● 個別にスピーキングテストを実施（年2回、1・3学期）</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方、学習方法についての説明</li> <li>・年間学習指導計画及び評価基準の説明</li> </ul>
	<p><b>Lesson 1</b></p> <p>Section 1 メキシコのグラグツア祭り</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「グラグツア祭り」に込められた願いを読み取る</li> <li>・動詞+目的語+to 不定詞の文法構造・用法を理解する</li> </ul>
	<p>Section 2 ニュージーランドのパフオーマンス、ハカ</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラグビーの試合で行われる「ハカ」に込められた思いを読み取る</li> <li>・疑問詞+to 不定詞の文法構造・用法を理解する</li> </ul>

	Section 3 世界最古の舞踊の一つ、インド舞踊	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インド映画でダンスシーンが多く使われている理由を読み取る</li> <li>・さまざまな伝統舞踊／映画について、意見や感想を交換する</li> </ul>
	まとめ	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな伝統舞踊を紹介するテレビ番組について読んだ内容について、書いて要点をまとめたり、与えられたフォーマットを参考に自分の考えを話して伝え合う</li> </ul>
6	<b>Lesson 2</b>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・cake がこの慣用句に使われている理由を読み取る</li> </ul>
7	・ Section 1 慣用句 “a piece of cake” の表す意味	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問詞で始まる節の文法構造・用法を理解する</li> </ul>
	Section 2 慣用句 “a pie in the sky” の表す意味	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・pie や rice cake がこの慣用句に用いられている理由を読み取る</li> <li>・if で始まる節の文法構造・用法を理解する</li> </ul>
	Section 3 慣用句 “fight like cats and dogs” の表す意味	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラウン先生が海や萌にどんなことを気づかせたかったかを読み取る</li> <li>・英語と日本語の慣用句／動物について、意見を交換する</li> </ul>
	まとめ	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語と日本語の慣用句についての対話について読んだ内容について、書いて要点をまとめたり、与えられたフォーマットを参考に自分の考えを話して伝え合う</li> </ul>
7	表現活動	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由英作文や発表を実施</li> </ul>
8	<b>Lesson 3</b>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エイミーはなぜクオッカを紹介したいと考えたのかを読み取る</li> </ul>
9	・ Section 1 オーストラリアに生息するクオッカの特徴	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使役動詞の文法構造・用法を理解する</li> </ul>
10	・ Section 2 クオッカがロットネスト島に多く生息している理由	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間による開拓が生態系に及ぼす影響について読み取る</li> <li>・知覚動詞の文法構造・用法を理解する</li> </ul>
	Section 3 クオッカが世界一幸せな動物と言われる理由	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クオッカに触ったりえさを与えることが禁止されている理由を読み取る</li> <li>・クオッカ／絶滅危惧種などについて、意見を交換する</li> </ul>
	まとめ	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クオッカ／絶滅危惧種などについて読んだ内容について、書いて要点をまとめたり、与えられたフォーマットを参考に自分の考えを話して伝え合う</li> </ul>

10	<b>Lesson 4</b>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>切手をデザインするのに、なぜ長い時間がかかるのかを読み取る</li> <li>形式主語 it の文法構造・用法を理解する</li> </ul>
11	Section 1 切手デザイナーという仕事  Section 2 東日本大震災の切手に込められた思い  Section 3 切手をデザインする仕事のやりがい  まとめ	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災の切手のデザインが、玉木さんの印象に残っている理由を読み取る</li> <li>形式目的語 it の文法構造・用法を理解する</li> <li>日本だけでなく世界の人々が楽しめる切手とはどのようなものかを読み取る</li> <li>切手について、意見や感想を交換する</li> <li>切手／英語学習／切手についての発表へのコメントについてやりとりしたり、家事について感じていること／日本の切手についての紹介を書いて発表する</li> </ul>
12	表現活動	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由英作文や発表を実施</li> </ul>
12	<b>Lesson 5</b>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>モン・サン・ミシェルが世界遺産に登録された経緯を読み取る</li> <li>現在完了進行形の文法構造・用法を理解する</li> </ul>
1	Section 1 人気の世界遺産、モン・サン・ミシェル  Section 2 モン・サン・ミシェルの建立の伝説と建立後の変化  Section 3 便利になって生じた問題とそれに対する方策  まとめ	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>堤防道路の完成後、人々のモン・サン・ミシェルに対する印象について読み取る</li> <li>過去完了形、過去完了進行形の文法構造・用法を理解する</li> <li>モン・サン・ミシェルが人気の世界遺産になつた陰にある人々の努力を読み取る</li> <li>モン・サン・ミシェルについて、意見や感想を交換する</li> <li>モン・サン・ミシェル／趣味／日本の世界遺産について、読んだり聞いたりした内容の要点をまとめたり、基本的な語句や文を用いて、自分の考えを書く</li> </ul>
2	表現活動	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由英作文や発表を実施</li> </ul>
2	<b>Lesson 6</b>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ農家の減少と高齢化が生じているのかを読み取る</li> <li>現在完了形の受け身の文法構造・用法を理解する</li> </ul>
3	Section 1 日本の農業の課題とスマート農業  Section 2 スマート農業で活躍するロボット  Section 3 ドローンなどの先進技術による将来の展望	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロボットにでもらいたい農作業は何かを読み取る</li> <li>助動詞+受け身の文法構造・用法を理解する</li> <li>技術の進歩によって、社会がどのように変化するのかを読み取る</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"><li>・さまざまな伝統舞踊／映画について、意見や感想を交換する</li></ul>
まとめ	2	<ul style="list-style-type: none"><li>・スマート農業／忘れられない経験／ポスターの感想／ドローンの危険性について、基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に自分の考えを詳しく話して伝え合うことができる</li></ul>

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
家庭総合	A G W科・2年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 家庭総合 自立・養成・創造（東京書籍） <input type="checkbox"/> 家庭科学習ノート（熊本県高等学校教育研究会家庭部会編）
------	--

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考査したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・生活に必要な知識や技術を理解し、身に着けることができた。	B 評価の規準 [よく考え、自分の意見を説明できた] ・学習内容に関して自分事としてとらえ、自分の考えを記述したり、発表したりできた。	B 評価の規準 [粘り強く取り組む] ・問い合わせに対して積極的に発言した。 ・忘れ物がなく、授業に真剣に取り組んだ。 ・提出物を期限に遅れず提出できた。
※定期考査、作品、学習プリント、発表、学習の記録、実技試験		※学習プリント、実習の記録 学習、実習への取り組む姿勢
<p>[A 評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活や地域社会にも目を向け、課題解決のために学習に取り組んだ。</li> <li>・学んだことや実習で身に着けたことを家庭で実践できた。</li> </ul>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	食生活の課題について考える	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の食生活の課題</li> <li>・「食べる」とは</li> <li>・食生活の課題</li> <li>・食生活の変化</li> </ul>
	食事と栄養・食品	2	栄養と栄養素 炭水化物
5	調理実習①	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みたらし団子、いきなり団子（予定）</li> </ul>
		7	脂質 たんぱく質 無機質 ビタミン その他の食品
6	食品の選択と安全	3	食品の選択 食品の保存と加工 食品の衛生と安全
7	食物調理技術検定4級	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きゅうりの半月切り</li> <li>・計量の仕方（計量スプーン・計量カップ）</li> </ul>

8	ホームプロジェクト	2	・ホームプロジェクトの実施と発表
9	調理の基礎	3	・調理法や味付けのバランス ・食事の場面を考えた調理 ・野菜の切り方、だしの取り方
	調理実習②	2	・スパゲティミートソース、コンソメスープ（予定）
10	生涯の健康を見通した食事計画	4	栄養バランスのよい食事 食事計画
	調理実習③	2	・親子どんぶり、吸い物（予定）
11	食生活の文化と知恵	4	・日本の食文化 ・世界の食文化
	調理実習④	2	・包子、清川鶏蛋、棒棒鶏（予定）
12	これからの食生活	2	・食料生産と食糧問題 ・食の安全性 ・食をめぐる問題とその対策 ・持続可能な食生活
	調理実習⑤	2	・郷土料理講習会（予定）
	調理実習⑥	2	・ロールケーキ（予定）
1	情報の収集・比較と意思決定	2	・消費生活と意思決定 ・よりよい意思決定のために
	購入・支払いのルール	2	・購入と契約 ・多様化する支払方法
	消費者の権利と責任	2	・消費者の権利を生かす ・社会とつながる消費者
2	生涯の経済生活を見通す	1	・経済的に自立する ・生涯を見通して働く
	家計をマネジメントする	2	・家計の構造を理解する ・家計資産のマネジメント
	これからの経済生活	2	・家計と国民経済・国際経済・地域経済 ・家計が世界を動かす
3	住生活の変遷と住居の機能	3	・住居の機能と変化 ・平面図を理解する ・住居の計画 ・誰もが住みやすい住居とまち
	安全で快適な住生活の計画	2	・住居の防災 ・健康な住生活 ・住みやすさの工夫

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
器楽	社会福祉科2、3年 保育福祉類型	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 高校生の歌集 <input type="checkbox"/> ハノン
------	---

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようとする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、器楽・創作で表している。	B 評価の規準 [自ら表現意図を持ってい る] ・自己のイメージをもって 器楽表現ができている。	B 評価の規準 [主体的・協働的] ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、発表ができる。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、実技試験で主に判断します。		

特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ピアノ実技 歌 (課題曲・自由曲)		課題曲・自由曲の譜読み 歌の練習
5			
6	ピアノ実技 歌 (課題曲・自由曲)		
7			
8			
9	ピアノ実技 歌 (課題曲・自由曲)		課題曲・自由曲の譜読み 歌の練習
10			

11	ピアノ実技 歌 (課題曲・自由曲)		課題曲・自由曲の譜読み 歌の練習
12			
1	ピアノ実技 歌 (課題曲・自由曲)		課題曲・自由曲の譜読み 歌の練習
2			
3			

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
保育基礎	W科 (保育福祉類型)・2年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 保育基礎（教育図書） <input type="checkbox"/> 保育基礎ワークノート
------	--

科目の目標		
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・子供の発達や生活の特徴について理解し、保育に関する技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 [よく考え、自分の意見を説明できた] ・学習や実習内容を理解し、意見を出し合い、創意工夫しながら取り組むことができた。 ・状況に応じた言動ができた。	B 評価の規準 [粘り強く取り組んだ] ・忘れ物がなく、授業に真剣に取り組んだ。 ・苦手なことにも向上心を持って取り組んだ。 ・提出物を期限に遅れず提出できた。
※定期考査、作品、学習プリント、発表、学習の記録		※学習プリント、実習の記録 学習、実習への取り組む姿勢
[A 評価] ・実習に率先して取り組み、他の模範となった。 ・子どもを取り巻く課題を意識するなど、目的意識を持って学習に取り組んだ。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	子どもにかかわる職業を知ろう	1	・子どもにかかわる職業の種類
	保育の意義	1	・保育とは何か ・育ての心
	保育の環境	2	・子どもが育つ環境 ・家庭での養育 ・さまざまな保育の場 ・保育ニーズの高まりと課題 ・集団保育の重要性
5	子どもの表現活動	2	・子どもの表現活動の意義 ・造形表現活動 ・言語表現活動 ・音楽・身体表現活動 ・情報手段などを活用した表現活動
	保育検定3級に挑戦しよう	10	・音楽・リズム表現・造形表現 ・言語表現・家庭看護
6	保育の方法	2	・保育の方法の基本
7	子どもの発達の特性	3	・発達とは何か

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の大切さ・発達の共通性</li> <li>・発達の個人差・発達と環境</li> </ul>
8	保育実習に向けて	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃ作成</li> <li>・手づくり名札製作</li> </ul>
	保育検定2級に挑戦しよう	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭看護</li> </ul>
10	保育実習	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導</li> <li>・保育園、幼稚園実習</li> <li>・事後指導</li> </ul>
11	保育検定に挑戦しよう	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形表現</li> </ul>
	乳幼児期の発育と発達	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の発育</li> <li>・乳幼児期の生理的特徴</li> <li>・乳幼児期の発達の特性</li> </ul>
12	子どもの健康と生活	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの養護・生活習慣の習得</li> </ul>
	子どもの食事	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養と食生活・乳児の食事</li> <li>・離乳・幼児の食事</li> </ul>
	調理実習	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離乳食</li> </ul>
1	子どもの衣服と寝具	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの衣服の役割</li> <li>・子どもの衣服の選び方</li> <li>・子どもの衣服の調節</li> <li>・おむつ</li> <li>・子どもの寝具など</li> </ul>
	被服実習	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃの製作</li> </ul>
2	子どもの健康と安	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の役割</li> <li>・子どもの病気の特徴</li> <li>・子どもの主な病気</li> <li>・病気の子どもの看護の方法</li> <li>・病気の予防</li> <li>・子どもの安全</li> <li>・子どもの成長と遊びの中の危険</li> <li>・応急処置と救急用品</li> </ul>
3	保育に見る児童観	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人の意のままになる存在</li> <li>・「子ども」の発見</li> </ul>
	児童福祉の理念と法規・制度	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉の歴史</li> <li>・児童福祉の法律</li> <li>・児童福祉に関わる施設</li> </ul>
	子どもの文化の意義	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの文化とは</li> <li>・子どもの文化の現状</li> </ul>

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
ファッショントレーニング基礎	W科（保育類型）・2年	2	

使用教材	□教科書 ファッショントレーニング基礎（実教出版）
------	---------------------------

科目の目標		
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働きかせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、ファッショントレーニングの造形を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッショントレーニングの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッショントレーニングの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・衣服製作に必要な知識や技術を理解し、身に着けることができた。 ・安全に配慮し、適切な道具の扱いができた	B 評価の規準 [よく考え、自分の意見を説明できた] ・学習や実習内容を理解し、班で意見を出し合い、創意工夫しながら取り組むことができた。	B 評価の規準 [粘り強く取り組んだ] ・問い合わせに対して積極的に発言した。 ・忘れ物がなく、授業に真剣に取り組んだ。 ・苦手なことにも向上心を持って取り組んだ ・提出物を期限に遅れず提出できた。 ※学習プリント、実習の記録 学習、実習への取り組む姿勢
※定期考査、作品、学習プリント、発表、学習の記録、実技試験		
[A 評価] ・実習に率先して取り組み、他の模範となった。 ・学んだことや実習で身に着けたことを家庭で実践できた。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	衣服の構成	4	・人体と衣服 ・立体構成衣服と平面構成衣服
	基礎縫い	2	・縫い代の始末
5	洋服の製作	2	・製作の基礎
		16	家庭科技術検定被服製作3級に挑戦 ・アウターパンツの製作（練習・本番） ・筆記試験対策 ・着装 ・振り返り
6		4	・洋服の着装 ・着装の工夫
7		2	・製作の基礎
8		14	子ども用じんべい製作
9			
10			

11			<ul style="list-style-type: none"> <li>・型紙つくり</li> <li>・裁断・しるし付け</li> <li>・本縫い</li> <li>・仕上げ</li> </ul>
12			
1	洋服の製作	12	<p>女児服（ワンピース）製作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・型紙つくり</li> <li>・裁断・しるし付け</li> <li>・本縫い</li> <li>・仕上げ</li> </ul>
2			
3	端布の利用	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パッチワーク</li> </ul>
	実習のまとめ	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の実習を振り返り記録する</li> </ul>

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
フードデザイン	社会福祉科・2年	2	

使用教材	□教科書 フードデザイン（実教出版）
------	--------------------

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようとする。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B評価の規準 [わかった・できた] ・豊かな食生活に必要な知識や技術を理解し、身に着けることができた。 ・安全に配慮し、適切な道具の扱いができた	B評価の規準 [よく考え、自分の意見を説明できた] ・学習や実習内容を理解し、班で意見を出し合い、合理的に取り組むことができた。	B評価の規準 [粘り強く取り組んだ] ・忘れ物がなく、授業に真剣に取り組んだ。 ・苦手なことにも向上心を持って取り組んだ ・提出物を期限に遅れず提出できた。
※定期考查、作品、学習プリント、発表、学習の記録、実技試験		※学習プリント、実習の記録 学習、実習への取り組む姿勢
[A評価] ・実習に率先して取り組み、他の模範となった。 ・学んだことや実習で身に着けたことを家庭で実践できた。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	食事の意義と役割	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体をつくる栄養素としての食事</li> <li>・食生活を豊かにするものとしての食事</li> </ul>
	食をとりまく現状		<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養摂取の変化と現状</li> <li>・生活習慣と欠食</li> <li>・ライフスタイルの変化</li> <li>・食料自給率と食品ロス</li> <li>・食品の安全性と環境の変化</li> </ul>
	フードデザイン実習①	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よもぎ団子（予定）</li> </ul>
5	フードデザイン実習②	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鍋炊飯、みそ汁、卵焼き（予定）</li> </ul>
6	栄養素のはたらき	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物の摂取と栄養</li> <li>・炭水化物</li> <li>・脂質</li> <li>・たんぱく質</li> <li>・ミネラル</li> <li>・ビタミン</li> <li>・その他の食品成分</li> <li>・エネルギー</li> </ul>
	フードデザイン実習③		<ul style="list-style-type: none"> <li>・豚肉のピカタ、ポテトサラダ（予定）</li> </ul>
	ライフステージと栄養	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の栄養</li> <li>・青少年期の栄養</li> <li>・成人期の栄養</li> <li>・高齢期の栄養</li> </ul>
7	食事摂取基準と食事計画	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人の食事摂取基準</li> </ul>
	フードデザイン実習④		<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷製パスタ、ビシソワーズ（予定）</li> </ul>
8			
9	調理とおいしさ	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理の目的</li> <li>・食べ物のおいしさ</li> </ul>
	調理操作	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非加熱操作</li> <li>・加熱操作</li> <li>・加熱調理器具</li> </ul>
	調味操作	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調味の目的</li> <li>・調味をする段階</li> </ul>
10	食物調理技術検定2級	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定調理練習「」</li> <li>・基礎知識（筆記試験対策）</li> <li>・実技試験</li> </ul>
11			

12	食物調理技術検定 2 級	2	・目測
	フードデザイン実習⑤	2	・正月料理
1	献立作成	4	・日常食の献立作成条件 ・日常食の献立作成の手順
	フードデザイン実習⑥	2	・餃子、太平燕
2	フードデザイン実習⑦	2	・ちらし寿司、うしお汁、菜の花の和え物
	食物調理技術検定準 1 級について	2	・内容（実技、筆記試験）
3	フードデザイン実習⑧	2	・弁当献立（2 級検定に向けて）
	献立作成	2	・弁当献立調べ

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
社会福祉基礎	社会福祉科・2年	2	

使用教材	□教科書 社会福祉基礎 (実教出版)
------	--------------------

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
福祉について体系的・系統的に理解するとともに、各法律をもとに普段の暮らしが成り立っている事を踏まえ、関連する技術を身に付けるようにする。	福祉の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、論理観を踏まえ、論理的思考や化学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、常に向上心を持ち福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

B評価の規準 〔知識・技能〕 ・社会福祉の実践において必要な知識について体系的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	B評価の規準 〔思考〕 ・社会福祉の展開に関する諸問題を発見することができる。 〔判断〕 ・福祉倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けていれる。 〔表現〕 ・自分の考えを文章や発表を通して表現することができる。 〔評価物〕 ・課題レポート内容 ・グループワーク	B評価の規準 〔主体的〕 ・社会福祉基礎の学びの中で、現代の私たちを取り巻く社会や福祉に対する関心を高めることができる。 ・健全で持続的な社会をめざして自ら学び、問題解決に向けて、他者と協力し、取り組むことができる。 〔評価物〕 ・提出物（提出状況） ・課題レポート内容
<p>※定期考査及び単元・小テスト 「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価対象とする</p>		

特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4 5	第2編 社会福祉の歴史と次代の展望 第1章 諸外国における社会福祉	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の歴史</li> <li>・イギリスにおける社会福祉の発展               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)福祉国家の登場とあゆみ</li> <li>(2)福祉国家の再編と改革</li> </ul> </li> <li>・アメリカにおける社会福祉の発展</li> <li>・北欧の社会福祉</li> <li>・ヨーロッパ大陸諸国（ドイツ、フランス）の社会保障</li> <li>・アジアの少子高齢化と社会福祉の課題</li> </ul>
6	第2章 日本における社会福祉	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代社会福祉の黎明期</li> <li>・社会事業の成立と発展</li> <li>・戦時厚生事業による福祉対策</li> <li>・戦後対策としての社会福祉の構築</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度経済成長期と社会保障・社会福祉の拡充</li> <li>・新世紀に向けた福祉改革と介護保険制度の導入</li> <li>・子ども・家庭支援のさらなる充実をめざして</li> <li>・障害者福祉のさらなる充実をめざして</li> <li>・次代に向けた新たな社会福祉の挑戦</li> </ul>
7	第3編 生活を支える社会福祉・社会保障制度 第1章 社会保障制度の意義と役割	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度の意義と役割</li> <li>・社会保障の各制度の概要</li> </ul>
9	第3編 生活を支える社会福祉・社会保障制度 第1章 社会保障制度の意義と役割	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度を推進する機関</li> </ul>
	第2章 子ども家庭福祉	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化時代の子ども子育て支援</li> <li>・児童相談所と市町村の役割</li> <li>・子ども支援と保育</li> </ul>
10	第2章 子ども家庭福祉	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものすこやかな成長に向けて</li> <li>・子どもの貧困とひとり親家庭の福祉</li> <li>・社会的養護と児童虐待への対応</li> </ul>
11	第3章	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者福祉とは</li> </ul>
12	障害者福祉		<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の社会モデルと ICF</li> <li>・障害者福祉の理念</li> <li>・障害者福祉を支える法制度</li> <li>・障害者福祉の今後のあり方</li> </ul>
12	第5編 1 地域福祉の進展と多様な社会的支援制度 第1章 多様な社会的支援制度	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療提供体制のしくみ</li> <li>・司法と福祉の連携</li> <li>・権利擁護と成年後見制度</li> </ul>
2	第2章 地域福祉の進展と地域の将来	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つながりの再構築と社会福祉の役割</li> <li>・地域社会とボランティア</li> <li>・非営利組織の活動</li> <li>・福祉のまちづくりと地域社会</li> <li>・新時代に向けた社会福祉～地域共生社会の実現に向けて～</li> </ul>
3	1年間の振り返り	3	まとめ

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
介護福祉基礎	社会福祉科2年	2	

使用教材	□介護福祉基礎（実教出版）
------	---------------

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解していると共に、関連する介護技術を身につけている。	介護に関する諸問題を発見し、介護者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	よりよい介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>B 評価の規準</b></p> <p>[知識]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解している。</li> </ul> <p>[技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関連する介護技術を身につけてている。</li> </ul>	<p><b>B 評価の規準</b></p> <p>[思考・判断]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護に関する諸問題を見ることができる。</li> </ul> <p>[判断]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。</li> </ul> <p>[表現]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを文章や発表を通して表現することができる。</li> </ul> <p>[評価物]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題レポート</li> </ul>	<p><b>B 評価の規準</b></p> <p>[主体的]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。</li> <li>問題解決に向けて、他者と協力し、取り組むことができる。</li> </ul> <p>[評価物]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>提出物（提出状況）</li> <li>課題レポート</li> </ul>

※定期考查及び単元・小テスト  
「知識・技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう力」を評価対象とする

A 評価。

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第3章 介護従事者の倫理	4	・専門職の倫理
	第4章 介護実践における連携	4	・多職種連携とチームケア ・医療・保健・福祉と介護
5		4	・介護支援専門員との連携 ・ボランティアとの連携
6	第2章 自立に向けた支援	3	・自立を支援する専門職
	第2編 介護福祉の担い手	10	・介護の歴史と現状 ・介護福祉士の養成
	第1章		

7	介護従事者をとりまく状況	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士の養成</li> <li>・介護人材の確保と定着</li> <li>・介護従事者のキャリアアップ</li> </ul>
8	第2章 介護従事者の役割と介護福祉士	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の役割、介護福祉士の専門性</li> </ul>
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時における支援、平常時の防災活動</li> </ul>
9			
10	第1編 介護の意義と役割 第1章 尊厳を支える介護	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の意義、役割、尊厳を支える介護</li> <li>・利用者主体の介護サービス</li> <li>・介護を必要とする高齢者の人権と尊厳</li> </ul>
11	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第1章 介護を必要とする人と生活環境	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の活動</li> <li>・高齢者をとりまく環境の考え方</li> </ul>
		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の生活支援</li> </ul>
12	第5章 介護福祉サービスの概要	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービスの利用方法</li> <li>・介護サービスの場の特性（在宅）</li> <li>・居宅介護サービス</li> <li>・地域密着型サービス</li> <li>・介護サービスの場の特性（施設）</li> <li>・施設サービス</li> </ul>
1			
2			
3			

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
生活支援技術	社会福祉学科 2年	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 実教出版 生活支援技術 <input type="checkbox"/> 準教科書 中央法規 生活支援技術Ⅱ <input type="checkbox"/> 準教科書 中央法規 医療的ケア
------	--

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自立生活の支援に必要な生活支援技術について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	自立生活の支援に必要な生活支援技術に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、生活支援技術に基づいた自立生活の支援に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 〔知識・技術〕 自立生活の支援について体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身につけていく。 【評価物】 ・実技テスト	B 評価の規準 〔思考・判断・表現〕 自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠にもとづいて創造的に解決している。 【評価物】 ・レポート ・提出物	B 評価の規準 〔主体的に学習に取り組む態度〕 健全で持続的な社会の構築をめざして自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 【評価物】 ・レポート ・提出物
※定期考查		
A 評価。		

学習計画					
月	単元		時数	学習項目	
4	<第8章> 睡眠・休養の支援 <第9章> レクリエーションの支援	【第5編】 医療的ケア <第1章> 医療的ケアの理解	4 4	<input type="checkbox"/> 睡眠・休養の意義と目的 <input type="checkbox"/> レクリエーションの意義と目的	<input type="checkbox"/> 医療的ケアとは <input type="checkbox"/> 医療行為について
5	<第3章> 身じたくの支援	〈第2節〉 安全な療養生活	8	<input type="checkbox"/> 口腔ケアの維持と目的 <input type="checkbox"/> 支援の留意点	<input type="checkbox"/> 制度について <input type="checkbox"/> 安全な実施について
6	<第6章> 入浴・清潔保持の支援	〈第3節〉 清潔保持と感染予防	8	<input type="checkbox"/> 入浴・清潔保持の意義・目的 <input type="checkbox"/> 入浴・清潔保持の支援・留意点	<input type="checkbox"/> 感染予防について <input type="checkbox"/> 療養環境の清潔、消毒方法
7		□入浴・清潔保持の支援の技法	8		<input type="checkbox"/> 消毒と殺菌

8	<第7章> 排泄の支援	〈第4節〉 健康状態の把握  〈第2章〉 喀痰吸引	2	□排泄の意義・目的	□身体・精神の健康 □障がい者の喀痰吸引	
9			8	□排泄の支援の技法 ・トイレ介助	□高齢者の喀痰吸引 □健康状態を知る項目	
10			8	・ポータブルトイレ 介助	□喀痰吸引の手順に ついて解説	
11			8	・おむつ交換	□喀痰吸引のツ氏に ついて解説	
12			6	・清拭・陰部洗浄	□喀痰吸引演習	
1	【3編】 緊急時・災害時 の支援	振り返り まとめ	6	□緊急時、災害時の 支援の意義目的 □実際の支援方法な ど □事例検討		
2	振り返り		6	・事例に基づく支援 の方法		
3			4			

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
介護総合演習	社会福祉科2年	1	

使用教材	□介護総合演習・介護実習（中央法規）
------	--------------------

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

B評価の規準 [知識・技術] ・地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付けていく。  [評価物] ・レクリエーション実施計画 ・レポート（多職種連携） ・実習報告会資料作成	B評価の規準 [思考] ・地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、解決策を探求している。  [判断] ・科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。  [表現] ・自分の考えを文章や発表を通して表現することができる。  [評価物] ・レクリエーション作成（計画・作成物） ・レポート（多職種連携）	B評価の規準 [主体的] ・地域福祉や福祉社会の発展のために福祉の見方・考え方を働きかせ、協働的に取り組むことができる。  [評価物] ・提出物（提出状況） ・レクリエーション実施（クラス内） ・実習報告会
※定期考查実施なし 実施状況・提出物・作成物・報告会で「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体性」を評価対象とする。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第1章 介護総合演習で何を学ぶか	2	・介護総合演習の目的 ・2年時の介護実習について
5	第2章 介護実習で何を学ぶか	2	・介護実習の意義と目的 ・介護実習の種類
6	第3章 介護実習準備、実習中・実習後の学び	4	・介護実習への心構え ・介護実習前後の学習の内容と方法 ・自己紹介シート作成 ・個人票作成 ・誓約書について
			・実習先概要調べ ・レクリエーション計画・実施
	第4章 実習先の特徴、実習先での学び	2	・介護実習（デイ・小規模・G H等） ・実習振り返り
7		2	

			・レクリエーション実施後の振り返り・修正
9	第3章 介護実習準備、実習中・実習後の学び	4	・実習先概要調べ発表 ・実習中指導 ・実習での情報共有
10	第3章	4	・介護実習報告会発表準備
11	介護実習準備、実習中・実習後の学び		・介護実習報告会発表
12	学び	4	・介護実習報告会発表準備 ・施設お礼状作成 ・実習振り返り
		4	・介護実習報告会発表
1	第4章 実習先の特徴、実習先での学び	4	・3年次での実習施設について
2	第4章	4	・介護過程について
3	実習先の特徴、実習先での学び		

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
介護実習	社会福祉科 2年 (保育福祉類型)	1	

使用教材	□教科書 中央法規 介護総合演習・介護実習
------	-----------------------

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ化学手金根拠に基づいて創造的に解決する力を養う	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
20%	40%	40%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準</p> <p>[知識・技術]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けています。</li> </ul> <p>[評価物]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習評価表（施設）</li> </ul>	<p>B 評価の規準</p> <p>[思考]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しています。</li> </ul> <p>[判断]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的な根拠に基づいて創造的に解決しています。</li> </ul> <p>[表現]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを文章や発表を通して表現することができます。</li> </ul> <p>[評価物]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習評価表（施設）</li> </ul>	<p>B 評価の規準</p> <p>[主体的]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協働的に取り組むことができる。</li> </ul> <p>[評価物]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提出物（提出状況）</li> <li>・実習記録内容</li> <li>・実習評価表（施設）</li> </ul>
※定期考查実施なし		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
7	介護実習Ⅰ期 7月中旬～下旬（8日間） 多様な介護の場における実習	76	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニケーションの実践</li> <li>○介護技術の実践</li> <li>○レクリエーション実施</li> <li>○在宅実習（デイサービスセンター、グループホーム、小規模多機能型居宅介護）</li> </ul>
10	保育実習 10月上旬～下旬（12日間）		<ul style="list-style-type: none"> <li>保育実習（幼稚園・保育園・認定こども園）</li> <li>・保育基礎で実施</li> </ul>

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
介護実習	社会福祉科 2年 (介護福祉類型)	5	

使用教材	□教科書 中央法規 介護総合演習・介護実習
------	-----------------------

科目の目標		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ化学手金根拠に基づいて創造的に解決する力を養う	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	40%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

<b>B評価の規準</b>	<b>B評価の規準</b>	<b>B評価の規準</b>
[知識・技術] <ul style="list-style-type: none"> <li>介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けています。</li> </ul>	[思考] <ul style="list-style-type: none"> <li>介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しています。</li> </ul>	[主体的] <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協働的に取り組むことができる。</li> </ul>
[評価物] <ul style="list-style-type: none"> <li>実習評価表（施設・巡回）</li> </ul>	[判断] <ul style="list-style-type: none"> <li>科学的な根拠に基づいて創造的に解決しています。</li> </ul>	[評価物] <ul style="list-style-type: none"> <li>提出物（提出状況）</li> </ul>
	[表現] <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを文章や発表を通して表現することができます。</li> </ul>	[実習評価表（施設・巡回）]
	※定期考查実施なし	
		特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
7	介護実習Ⅰ期 7月中旬～下旬 (8日間)	76	○コミュニケーションの実践 ○介護技術の実践 ○多職種協働及びチームケアの理解
	個別ケアを理解するための継続した実習		□施設実習（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設）
10	介護実習Ⅱ期 10月上旬～下旬 (12日間)	65 50	○個別的な介護技術の実践 ○コミュニケーションの実践 ○多職種協働及びチームケアの理解
	個別ケアを理解するための継続した実習		□施設実習（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設）

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
こころとからだの理解	社会福祉科 2年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> こころとからだの理解（実教出版） <input type="checkbox"/> こころとからだのしくみ（中央法規）
------	---

科目の目標		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、介護を実践するための人間に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようとする。	自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B評価の標準 [知識・技術] ・自立支援に必要なこころとからだに関する知識を理解し、関連する技術を習得する。 [評価物] ・単元テスト ・小テスト	B評価の標準 [思考・判断・表現] ・自立支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、科学的根拠にもとづいて解決する力を身に付ける。 [評価物] ・提出物 ・課題レポート	B評価の標準 [学びに向かう力] ・授業中の個人やグループで行う活動において、記録や発言などに主体的に取り組む。 ・定期考査や小テストのやり直しを通して、自らの課題に気づき改善しようとする力を身に付ける。 [評価物] ・提出物（提出状況） ・課題レポート
※定期考査及び単元・小テスト 「知識・技術」「思考・判断・表現」を評価対象とする		
評価物の評価が満点の7割以上でA評価		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第4編 認知症の理解 第1章 認知症を取りまく状況	4	○認知症ケアの歴史と理念 □老人福祉法、介護保険法、パーソンセンタードケア
	第4編 認知症の理解 第1章 認知症を取りまく状況	4	○認知症高齢者の現状と施策 □認知症センター、オレンジプラン、新オレンジプラン
	第4編 認知症の理解 第2章 認知症の基礎的理解	4	○認知症による症状 □認知症、中核症状、行動・心理症状、間違えやすい症状
5	第4編 認知症の理解 第2章 認知症の基礎的理解	4	○認知症の診断 □スクリーニング、MMSE、HDS-R、CT・MRI
	第4編 認知症の理解 第2章 認知症の基礎的理解	4	○認知症の主な病気の特徴 □アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症
	第4編 認知症の理解 第2章 認知症の基礎的理解	4	○認知症の治療・予防 □認知症治療、介護保険サービス、薬物療法
6	第4編 認知症の理解 第3章 認知症に伴う心身の変化と日常生活	4	○認知症の人の特徴的な症状 □防衛反応、記憶障害、見当識障害、遂行機能障害、失行・失認、注意障害
	第4編 認知症の理解 第3章 認知症に伴う心身の変化と日常生活	4	○認知症に伴う日常生活への影響 □生活障害、アセスメント、リフレーミング、ひもときシート
7	第4編 認知症の理解 第4章 認知症と地域サポート	4	○地域におけるサポート体制 □地域包括支援センター、認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チーム、認知症センター
	介護実習		8日間
9	第4編 認知症の理解 第4章 認知症と地域サポート	4	○家族への支援 □介護負担、レスパイトケア
10	介護実習		12日間
	第5編 障害の理解 第1章 障害の基礎的理解	4	○障害の概念 □ICF、ICIDH、障害者基本法、障害者総合支援法
11	第5編	4	○障害者福祉の基本理念

	障害の理解 第1章 障害の基礎的理解		<input type="checkbox"/> ノーマライゼーション、インクルージョン、リハビリテーション
12	第5編 障害の理解 第2章 生活機能障害の理解	4	<input type="radio"/> 身体障害 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳、視覚障害、聴覚・言語障害、肢体不自由、内部障害
1	第5編 障害の理解 第2章 生活機能障害の理解	4	<input type="radio"/> 精神障害 <input type="checkbox"/> ICD、DSM、精神障害者保健福祉手帳
2	第5編 障害の理解 第2章 生活機能障害の理解	4	<input type="radio"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 知的障害の定義、生活上の困難
	第5編 障害の理解 第2章 生活機能障害の理解	4	<input type="radio"/> 発達障害 <input type="checkbox"/> 発達障害者支援法、自閉症スペクトラム、アスペルガー症候群、学習障害、ADHD
3	第5編 障害の理解 第2章 生活機能障害の理解	2	<input type="radio"/> 高次脳機能障害、難病 <input type="checkbox"/> 高次脳機能障害の種類と症状、指定難病
	第5編 障害の理解 第3章 障害に伴う心身の変化と日常生活 第4章 障害と地域生活支援	4	<input type="radio"/> 障害のある人の心理、障害に伴う機能の変化と日常生活への影響 <input type="checkbox"/> 障害の受容過程、ストレングス、ユニバーサルデザイン <input type="radio"/> 障害のある人の地域生活上の困難と支援、障害のある人の地域サポート体制、家族への支援 <input type="checkbox"/> チームアプローチ、相談支援専門員、レスパイト、基幹相談支援センター

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
福祉情報	社会福祉科・2年	2	

使用教材	□福祉情報活用（実教出版）
------	---------------

科目の目標		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報及び福祉分野における情報の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	情報及び福祉分野における情報の活用に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、情報及び福祉分野における情報の活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B評価の標準 【知識・技術】 ・情報の活用に関する知識を理解し、関連する技術を身につける。福祉分野における情報機器の活用方法について理解する。 【評価物】 ・単元テスト ・実技テスト	B評価の標準 【思考・判断・表現】 ・情報社会における課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 【評価物】 ・情報モラルについて知り、正しく情報機器を活用するための方策について考え方行動する力を身に付ける。 【評価物】 ・提出物 ・課題レポート	B評価の標準 【学びに向かう力】 ・定期考查や単元テストのやり直しを通して、自らの課題に気づき改善しようとする力を身に付ける。 【評価物】 ・提出物（提出状況） ・課題レポート

※定期考査及び単元テスト、実技テスト  
 「知識・技術」「思考・判断・表現」を評価対象とする

評価物の評価が満点の7割以上でA評価

### 学習計画

月	単元	時数	学習項目
4	第1章 情報化の発展と生活産業	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化の進展</li> <li>・情報化の進展に伴う生活の変化</li> <li>・情報化の進展に伴う問題</li> <li>・情報化の進展に伴う産業の変化</li> <li>・生活産業における情報機器の役割と利用</li> <li>・情報通信技術を利用した生活産業のサービス</li> </ul>
5	第2章 情報モラルとセキュリティ	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク社会の新たな問題</li> <li>・インターネット上におけるトラブル</li> <li>・ネットワーク社会のモラルとマナー</li> <li>・個人情報の取り扱い</li> <li>・知的財産権</li> <li>・肖像権</li> <li>・情報関連の法律と制度</li> <li>・セキュリティ管理の必要性</li> <li>・セキュリティ管理の方法</li> <li>・コンピュータウイルス対策</li> <li>・有害情報への対策</li> </ul>
6	第6章 情報の処理・分析・発信	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語ワードプロセッサの利用 (Word) ※ビジネス文書検定練習(文書・速度)</li> </ul>
7	第6章 情報の処理・分析・発信	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語ワードプロセッサの利用 (Word) ※ビジネス文書検定練習(文書・速度)</li> </ul>
9	第6章 情報の処理・分析・発信	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算ソフトの利用 (Excel) ※ビジネス文書検定練習(文書・速度)</li> </ul>
10	第6章 情報の処理・分析・発信	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算ソフトの利用 (Excel) ※ビジネス文書検定練習(文書・速度)</li> </ul>
11	第6章 情報の処理・分析・発信	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算ソフトの利用 (Excel) ※ビジネス文書検定受験(文書・速度)</li> </ul>
12	第6章 情報の処理・分析・発信	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフトの利用 (PowerPoint)</li> </ul>
1	第6章 情報の処理・分析・発信	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフトの利用 (PowerPoint)</li> </ul>
2	第6章 情報の処理・分析・発信	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフトの利用 (PowerPoint)</li> </ul>
3	第6章 情報の処理・分析・発信	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミング</li> </ul>